



滝沢スイカ大作戦！！収穫しておいしくいただきました！！

8月22日(金)、5年生の子ども達は総合的な学習の時間に進めている「滝沢スイカ大作戦」の学習でスイカの収穫体験に挑戦しました。

5月1日(木)に植えた苗は、今年の記録的な猛暑にも負けず、この4か月で大きく実り、収穫を迎えました。

今回も苗植えや7月の学習会のときと同様に、スイカ栽培の指導をしてくださっている駿河さんから、今年度のスイカの出来具合や収穫時期についての説明をしていただきました。本来であれば、滝沢スイカの収穫は、7月下旬から8月上旬がベストとのことでしたが、子ども達が夏休み中ということもあり、無理を言ってこの時期の収穫にさせていただきました。

スイカの収穫は、学級の代表児童がつるからスイカを切り離す作業を行いました。代表児童は、収穫するスイカを選んで切り離し、それを持ち上げて学級の皆にアピールしていました。その場で食べやすいサイズにカットしていただき、試食しました。子ども達は、「うま〜い!」「とっても甘〜い」「滝沢スイカ最高〜」など、いろいろな感想を言いながら、夢中で食べていました。

5年生の子ども達は、この体験学習を通しておいしいスイカをつくるための工夫や世話の大変さ、「滝沢スイカ」というブランドを確立させるための努力や思いなど、たくさんのことを学ばせていただきました。今年も、子ども達へのご指導やたくさんのお世話をいただいた駿河さんに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



【収穫したスイカを持ち上げる児童】



【とれたてのスイカにかぶりつく児童】

あいさつを響かせよう！ジョイントアップあいさつ運動を機に・・・

8月26日(火)、今年度3回目となる「J Uあいさつ運動」が滝沢小学校で行われました。

今回は、小学校の児童会執行部・応援委員会と中学校の生徒会執行部に加えて学年生徒会も参加し、

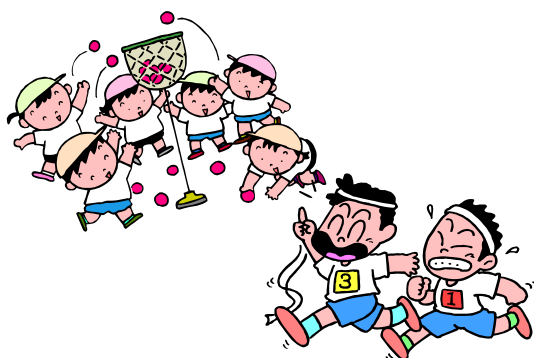


【2学期最初のJ Uあいさつ運動】

小学校の昇降口脇であいさつを行いました。プール脇から中庭を通して登校してくる子ども達は、いつもより多い人数のあいさつ運動に少し驚いた様子も見られましたが、生徒会や児童会のお兄さん・お姉さんのあいさつに元気よくあいさつする子、照れながらあいさつする子、下を向いて歩いていく子とさまざまでした。2学期が始まったばかりで、学校の生活に戻りきれていないこともあります。元気にあいさつをすることは大切なことですので、全校で力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

ぜひ、ご家庭でもあいさつへの声がけへのご協力をよろしくお願いいたします。

運動会スローガン「一致団結～心をつに～」…全校の輝きを目指して！



9月27日(土)に運動会が行われます。今年は、酷暑で熱中症アラートが発令される日も多く、また、暑さで外に出ることに不安を感じる日も結構ありました。そんな中、ようやく朝晩は気温も下がり、天候も落ち着いてきたように感じられます。各学年では、運動会に向けての練習が始まりました。

先日、児童会から運動会のスローガンが提案されました。今年度のスローガンは、「一致団結 ～心をつに～」です。このスローガンには、「それぞれの組団が協力して競技や応援に取り組んでほしい」「運動会で一人一人が輝いてほしい」そして、「心をつにして絆を深

めてほしい」という願いが込められています。

運動会当日はもちろんのこと、運動会練習の中でも、一人一人が自分のめあてをもって全力で取り組む姿やまわりと支え合い協力する姿、そして、笑顔で輝く姿をたくさん見せてくれることと思います。

キャップハンディ体験学習(白杖体験)：思いやりと助け合いの気持ちを・・・

8月28日(木)の3・4時間目、4年生は2クラスずつに分かれてキャップハンディ体験学習を行いました。当日は、滝沢市社会福祉協議会の方々が来校し、白杖体験学習を進めてくださいました。

まず最初に、「白杖」は全盲の人だけでなく、弱視者(目の前のものが見えても周囲の様子が見えにくい、色の区別がつきにくい)の人たちにも必要なものであることを教えていただきました。そして、「白杖」には次のような役割があることも教えていただきました。

【白杖の役割】

- ・シンボル：周囲の人に自分が視覚障害者であることを伝える。これにより、周囲から配慮や援助を受けやすくなる。
- ・情報収集：自分の歩く先に障害物がないか、地面の状況や進行方向を確認する。
- ・バンパー：何かにぶつかったときに、その衝撃を和らげ体を守ってくれる。

次に、実際にどのように杖を使って歩くのか、介助する人はどのようにすればよいのかを社会福祉協議会の方のお手本から学び、体験に入りました。二人一組のペアで、タオルを目に巻いて白杖を持って歩く人、介助する人の役割に分かれ、段差のある場所や曲がり角、点字ブロックのあるコースを回ってくるというものでした。目隠しをした子は、不安そうに白杖で足元を何度も確かめながら慎重に歩き、介助する人もけがをさせないようにそっと支えながら歩いていました。

この学習を通して、視覚に障がいのある人の大変さや不便さを理解するとともに、白杖の役割や使い方を理解することで、適切な関わり方を学ぶことができました。また、思いやりや助け合いの気持ちが大切であるという考えも深めることができた貴重な時間となりました。



【ペアでコースを回る児童】



【点字ブロックの上を歩く児童】